

## 幹事ブロック会長挨拶

・非常に厳しい社会背景の中、これまでの、素晴らしいセッティング等に及べるかどうか、非常に身の引き締まる想いを強く感じていること。

・四国ブロックは、各ブロックと比べ、規模等も非常に小さく、物理的に任に当たれる人員も、限られた範囲であるため、ご協力、ご尽力も頂きながら、努めさせて頂きたいこと。

・今回、幹事担当にあたり、四国が他のブロックと比べて、陣容的にも、予算的にも小規模で、今回、辞退させて頂くことも1つの選択肢として、議論。関係機関との関係、全国のネットワーク等は、続けていかなければならない認識のもと、四国として出来る範囲で、幹事役を努めさせて頂くこととしたこと。

・四国案の開催趣旨、テーマ、運営等は、本省へ、四国としての案として報告し、一応のご了解は頂いたこと。

四国(実行委員会)富田委員長により進行

\* 進め方として、各項目、簡単に説明をし、意見を頂く流れで進めたいことをお願い。

## 1. 四国案...開催内容(趣旨・テーマ)について

(説明)

全国建設青年会議として、早急に取り組んで行かなければならないテーマとして考えられるものは、

地域建設会社の地域での防災、災害対応他、貢献活動の必要性

地域建設業者の必要性が評価に繋がる入札制度改革

地域社会との協調・連携のための、情報発信・情報交換

社会背景の劇的な変化に沿った、本業での有意性強化や新たな分野開拓(環境問題他への挑戦も含めて)他、これからの企業経営のあり方

の4つが考えられる。むろん、夫々のテーマ・目的を達するための手法は、相互に共通する面もあるが、何を最重要視するかで切り分けて整理した。

この4つの中で、の地域での防災、災害対応他、貢献活動の必要性は、17年度、近畿さんが、の企業経営のあり方は、18年度、中部さんが、テーマとして講じられ、それぞれ成果をあげられたので、今回のテーマ選定は、の入札制度改革又は、の情報交換・発信の何れかということになると思う。

目下、各地域とも待ったなしの厳しい・苦しい状況にあり、直ちに、これを改善していくために、の入札制度改革について取り組んで行かなければならないところではあるが、入札制度改革において重要な部分の、地域建設業者の必要性が制度のなかで、評価に繋がるようにしていくためには、地域社会に、正しく地域建設業者の必要性をご理解を頂いて、そのうえで、その必要性を評価頂く機運が高まるよう、遠回りではあるが、地域のためにも、私共のためにも、地域での建設会社の必要性・有意性が、入札制度の評価の中で、メリハリが利くように講じられるような議論の契機としていくために、の情報交換・情報発信に取り組んでいく必要があり、「地域における建設業の果たす役割とは」をテーマとして設定した。

要領としては、12年度四国で投じた一石の具現化。すなわち、地域社会にとって、必要な社会資本整備とは?、必要な地域建設業とは?等々を、まず、各ブロックで、地域マスコミ関係者他と意見交換を行ない、その議論の成果により、大会当日、地域マスコミとの意見交換を公開のもと行い、業界側の考えと一般(マスコミ)側の認識のギャップを起す原因(問題点)を抽出し、その改善策を模索・議論し、その成果を大会宣言として外部発信する要領で開催したいと考えている。

四国案の大会趣旨を合田委員より提起(以下)

2000年、四国ブロックが幹事を努めさせて頂いた、第一回全国会議においては、地域建設業の若手経営者が知恵を出し合って研鑽し、自助努力を積み重ねながら、「公共工事に限らず真の発注者は納税者」という認識のもと、民意を聞き取りながら地域建設産業の将来像を模索。

あわせて、社会資本の整備を通して、より豊かで安全で快適な地域づくりをおこなっていくことをアピールするために、開かれた形でのイベントとして開催し、一石を投じさせて頂きました。

あれから、早8年が経過し、その間、幹事ブロックの方々の一方ならぬご尽力により、全国の仲間の強い絆が出来たとともに、全国会議の大きな目的の、一般社会へ正しい情報を発信をして、ご理解を頂いたうえで、より良い社会資本整備のあり方について、共に考えていける機会も、徐々に出来つつあります。

一方、そのような中で、私共を取り巻く背景は、現状の必ずしも適正とは云えない競争環境の下で、真面目に経営に取り組んでいる地域建設業者が、いつまで経営を存続していけるか、日々、苦闘している「待ったなし!」の状況にあります。

そこで、今回は、地域にとって本当に必要な社会資本整備と建設業の役割とは何かについて、私共、地域建設業者の率直な想いを訴え、説明し、一般社会からの本当の捉えられ方を、マスコミ関係者に代表して頂いて真摯に学び、受け止めて議論を行ないたいと思います。

そして、次の世代に引き継いでいくための社会資本整備と地域建設業のあり方について、「共通認識出来るものを抽出し、各地域での、新たな地域づくりのためのパートナーシップの輪を興す成果を見出す。」ことを目的として、本年度の全国大会を開催致します。

北海道ブロックから順に、四国案の開催趣旨・テーマについて、各ブロックから意見を頂きながら意見交換

北海道	取り組んで行かなければならないと考えているので、是非、提案の方向で進めて頂きたい。
東北	提案どおりでOK。青年会議の活動が、元気になっていくように！。宮城県の事情(各企業の運営でのマイナスがH17は 40万円。H18は 550万円。H19はもっと下がる見込み。某地域に、全く元請け企業が無い状況。大きな要因は地震。県議会、市議会他との意見交流は図っているが、 <b>実情の理解が薄い</b> ように感じている。) 地域建設企業が適正に経営をしていけるようしていくには、早急に、国に動いて貰えるように進めていくべき。
北陸	テーマの選定は良い。*主幹ブロックにお任せでOK。マスコミとの連携と併せて、一般住民にも働きかけ(理解者をつくる。)をしていく必要がある。PTA等、 <b>民間の市民団体等との交流</b> また、 <b>先進地域での活動も是非、紹介</b> して欲しい。
関東	提案どおりでOK。マスコミ等に情報を発信していくためには、日頃からのコミュニケーションが不可欠。また、ドラマチックな演出も必要では。
四国	四国としての考え方(既に四国のNPOで実施したものを例示 同程度のものを先ず、四国で実施し、見て貰って 各地域で地域マスコミと議論 全国大会で集約 更にコミュニケーションを取っていく。)を説明。
中部	提案どおりでOK。(小テーマ、議論の詰め方は調整要。)*青年会らしいテーマではあるが、 <b>マスコミ側の認識との意見のすり合わせをどのようにおこなうのかに注意する。</b> 大会時、 <b>お互いの現状認識を確認するだけだと意味が無い。新しい発想で今後のあり方を提案することが必要。</b>
九州	提案に賛同し、協力する。応援団を作っていく取り組みを！業界内の意識を徹底していく働きかけも必要。マスコミへの情報発信の要領にも注意を！ <b>九州は、現在、地域的に、マスコミと連携をとることが難しいこと</b> を含んで頂きたい。
四国	四国で実施した際のマスコミ関係者からの個人的な意見として、比較的、地域社会資本整備の必要性に好意的であったこと。防災・地域貢献活動を行っていることを、もっと紹介すべき(具体的には良く認識していないので)との申し出があったことを報告。
中国	テーマはOK。皆で取り組むことで成果に繋がりたい。業界の現状とマスコミの認識のギャップ 考え方の押し付けは出来ないが、どうしても伝え、理解して貰わなければならないことはある。趣旨の最後「地域づくりのパートナーシップ」は誰を指すのか？
四国	マスコミの意見交換を切り口に、マスコミも含め、共に地域を支える地域の方々に広げていきたい旨を説明。
近畿	趣旨はOK。 <b>近畿はブロックとして、マスコミの選定が困難。</b>
四国	ブロック内の可能な県だけ等、可能な範囲でということで説明(お願い)した。
近畿	可能な範囲(県等のみ)で実施しても、ブロック内での共通認識は必要。その点からも、一過性でなく、継続的に行なっていかなければ、成果に繋がって行かない(これまでの全国大会の取り組みも含めて)ので、継続していける方法も検討して頂きたい。
四国	四国幹事開催の1回目の目的でもあり、マスコミを交えた意見交流を、進めていきたいことを説明。
結論	四国案、開催内容(趣旨・テーマ)について、各頂いた意見(以下留意点)を踏まえて進めていくことでした承。

#### 留意点として

- ・施策(議会等)サイドの認識も薄い。
- ・市民団体等との連携。
- ・先進地域活動の紹介。
- ・自己保全にならないこと。マスコミ側との意見のすり合わせ方法の図り方。大会での結果の捉え方
- ・マスコミとの連携を取りにくいブロックへの対応(近畿、九州)

## 2. 四国案...運営要領について

(説明)

これまで、12回。各ブロックのご尽力でバトンを引継いで頂き、準備段階、また、大会の有り様も年々、非常に洗練されたものになったこと。

もともとは、準備会後の懇親会の併催は、四国幹事の際に、意志の疎通や共通認識を図るため席を設けたもので、その点は既に、情報交換やコミュニケーションは図れていると認識していること。

加えて、一般社会に対して、建設業の厳しさをご理解頂く内容であること、また、各地域での活動等も非常に苦しいという現実も踏まえて、やはり、大会並びに準備会も含めて、開催規模、設営等も縮減していくことも必要であると考え、必要最小限の規模で、コスト面も考慮した会場を使って開催させて頂きたいと考えていること。一応、11.28(金)経団連会館は仮押さえしていること。

四国案の運営要領の提案について、各ブロックから意見を頂きながら意見交換

近畿	縮小の方向性で良いと思うが、近畿の各県代表1名づつでも6名なので、6名の枠は頂きたい。
中国	この会への参加は、非常に有意義と思うので、人数制限は出来ればしないで欲しい。また、準備会への参加は、最低でも5名枠は必要。四国提案の内、4.18は、中国ブロックで既に所用がいつているので、4.25での設定をお願いしたい。
九州	縮小の方向性で良い。
中部	縮小の方向性で良い。規模を縮小することは良いが、大会参加者がどんな成果を持ち帰れるのかが、もっとも重要な点。今回の大会でのそれは何かを示す必要がある。
関東	縮小の方向性で良い。各ブロック毎の事情は考慮する必要がある。
北陸	縮小の方向性で良い。四国での準備会の際は、1泊で済むように設営を！
東北	縮小の方向性で良い。準備会の回数も、メール等での調整を使って減じることを検討して頂きたい。
北海道	縮小の方向性で良い。四国案でのスケジュールは？
四国 (結論)	四国案のスケジュール(4月準備会・四国開催とその概要、後2回は東京予定)を説明。 縮小の方向性については、概ねOK。但し、準備会の人数枠について、近畿・中国ブロックから最低限度の必要人数に、提案枠数だと足りない(近畿、中国)との意見だったので、基本的には、各ブロック5名枠で、各ブロックの事情により調整をすることで提案し了承された。 意見として、以下の事項にも留意する。

留意点として

- ・大会参加者がどんな成果を持ち帰れるを示す。
- ・四国での準備会の開始時間等の配慮。
- ・準備会開催回数(減の方向を検討。)

**その他の意見として**

近畿	対マスコミ戦略として、想定問答等での検証 理論武装が必要。この点をどう切り開く(対応する。)のか。
四国	マスコミの方々、個々とコミュニケーションを取りながら、地道に進めていくしかないと認識していることを説明。
東北	防災の観点で、日本の脆弱な国土と、それを守ってきた、守っていく地域建設業の役割を実績等を整理(データ化)して情報発信していく必要がある。
九州	このままでは、防災の支援が出来なくなることの背景を伝えることで、業界の窮状を理解して頂くことを切り口にする。 今回のテーマが、一過性(単発)で終わらないよう、今後、地域で続けていける方法も、是非、セットで検討して進めて頂きたい。(1つの例として、国会議員とのテレビ討論をするとか。)
四国	頂いた意見を踏まえ、四国案の方向性で進めさせて頂きたいが...
近畿	修正を求める意見に十分に回答が出来ていないのでは...。各ブロック毎に、対応するにあたり、かなりの覚悟が必要で、だから、単年では難しいことや、方法論をどうするのかということも云っている。最初から、全国大会として、継続事業とは捉えず、単年毎の事業と括られると、意見も出せない。
四国	これまで、毎回テーマを講じて行なってきた経過のなかで、四国での前回のテーマの対外発信を全国会議の目的として示したことが、表現が拙く、誤解を生じ申し訳ない。今回も出来れば、これを機会に地域毎に継続して行って頂ければと思っている。
近畿	継続的に行なっていかなければ、成果に繋がって行かないこと(今回だけで終わるのでは報われないこと)を充分認識して進めて頂きたい。四国としての考え方を押し付けられても...。第一回(四国幹事)~取り組んできたが...という点について、社会背景が激変しているのに、当時の流れの路線で進めたいので協力して頂きたいということにも違和感がある。
四国	意見として、今回のテーマは、特に継続性が必要ということは、十分に考慮する。四国としても、今回の機会を活用して、マスコミ関係者との連携を強めていきたいと考えているし、各ブロックでも、夫々事情もあり、どこまで可能かというところはあるが、今回の大会を契機に、何らかのパイプを作るきっかけにして頂きたいと考えている。
中部	テーマに基づいて、どのように議論を組み立てていくのか。どのように、運営をしていくのか。各ご意見はあると思う。ただ、このように喧々諤々の議論が出来るのも、全国会議のメンバーだからだと思う。夫々、各地域毎の考え方もあると思うが、一先ず、四国でのマスコミとの意見交換の様子を見て、再度、進め方を詰めていってはどうか。
四国 (結論)	非常に有り難いご提案。今回頂いたご意見も踏まえて、4月の四国での結果により、再度、調整した案を提案させて頂きたい旨を提案し、了承された。

留意点として

- ・想定問答等での検証、理論武装が必要。
- ・継続的に行なっていかなければ、成果に繋がって行かないことを充分認識して進めること。
- ・一先ず、四国でのマスコミとの意見交換の様子を見て、再度、進め方を詰める。

### 3. その他

四国(事務局より)

最後に、事務局からのお願いとして、準備会・大会の際の、参加申込み後のキャンセル・欠席等の扱いに関して、会場側の人数減可能日(開催日の3日前程度)以降の、キャンセル・欠席の場合は、当該ブロックにおいて、会費等の負担をお願いしたい旨を提案し、了承された。